

## 初出一覧

初出の論文名を挙げる。それぞれ多少変更や訂正を加え、原文には訳文を付した。

### 第二部作品論

- ・ On the Significance of “Nature” in *Coriolanus*  
関西大学英文学論集第18号 1979年 2月
- ・ *The Tempest* 試論 nature の観点から  
関西大学英文学論集第22号 1983年 3月
- ・ *Hamlet* における Nature 再考  
関西大学英文学論集第36号 1993年 3月
- ・ *King Lear* —nature 再考— 『英語・英米文学の心』  
大阪教育図書 1996年
- ・ *Titus Andronicus* における‘nature’の意味について  
関西大学英文学論集第37号 1997年12月
- ・ *Troilus and Cressida* における‘nature’の意味について  
関西大学英文学論集第38号 1998年12月
- ・ *Measure for Measure* における‘nature’の意味について  
関西大学英文学論集第39号 1999年12月
- ・ *Macbeth* における“nature”の意味再考  
関西大学英文学論集第40号 2000年12月
- ・ *Othello* における“nature”の意味再考  
関西大学英文学論集第43号 2003年12月

## あとがき

Shakespeare の全集が拷問部屋であって、Shakespeare はそこで nature of Nature に関して、飽くなき議論を行っているという Ted Hughes の記述を Bradshaw は *Shakespeare's Scepticism* の序の冒頭で挙げている。本書は nature に関する論考である。英語の nature はラテン語の natura に由来し、その natura はギリシャ語 physis の訳語である。natura に相当する英語の本来語は kind である。序章で、physis、natura、nature の意味を探り、第一部で、Shakespeare の全作品の派生語を含めた全ての nature の基本的な意味を検討し、第二部では、これまで発表した論考のうち、nature をキーワードに論じた作品論を収めたものである。

Shakespeare の訳文は試訳であるが、これまで出版されたほとんどの翻訳が収められている「シェイクスピア大全」CD-ROM 版（新潮社編、2003）を参考にさせていただいた。各翻訳家はそれぞれ nature の訳出に意を尽くしておられる。敬意と感謝の意を表したい。

作品論では多々重複があるがそのままにしている。ご寛恕を請いたい。第一部において、文脈の中で nature の基本的な意味を考察しただけであり、今後更に nature の理解を深め、nature をキーワードとして全作品を考究し、Shakespeare の全体像を浮かび上がらせたいと思っている。

本書の出版は関西大学研究成果出版補助金規程によるもので、推薦の辞を書いてくださった上村哲彦、坂本武両氏に感謝の意を表したい。また論文の転載を快く承諾してくださった大阪教育図書の社長である横山哲彌氏に謝意を表したい。最後に、出版部の課員の方々のご配慮に心より感謝申し上げる。

平成18年2月28日

筒井 脩

—著者紹介—

筒井 脩 (つつい・おさむ)

—著者略歴—

1935年 神戸市生まれ  
1960年 関西大学文学部英文学科卒業  
1964年 関西大学大学院文学研究科修士課程英文学専攻修了  
現 在 関西大学文学部教授

—著書—

『英語学習のためのCD-ROM入門 —辞典・聖書・英米文学—』  
大阪教育図書、1996年

## シェイクスピアにおけるNatureの意味

---

2006年3月15日 発行

著 者 筒 井 脩

発行所 関 西 大 学 出 版 部

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話 06(6368)1121 FAX 06(6389)5162

印刷所 (株) 廣 済 堂

大阪事業部 豊中市蛍池西町2-2-1

©2006 Osamu TSUTSUI

Printed in Japan

ISBN4-87354-427-0 C3098

落丁・乱丁はお取替えいたします